

おせち料理と

**これ1冊で
毎日役立ちます

365日の夕食献立

付・毎月お正月
重箱料理研究家・^{なすじろう}那須次郎・著

春、秋の通勤
夏休みのお手
重箱の隅を(思う存分)
つついて遊ぶ

《設計編》



日本文学出版社

No.

Date

第一巻『設計編』 初版 20部 (July 20, '85)

第1次改訂版 20部 (Sept. 30, '85)

第2次改訂版 20部 (Dec. '85)
(補足 10冊分)

ホニワ改訂版 10部 (Apr. 28, '88)

ほんわ改訂版 10部 (Oct. 01, '92)

11部 (Nov. 05, '98)

Dear OM :

How are you ?

さてこのたび、高周波増幅器の回路設計に

関してのごく細かい(本筋にはあまり出ていないような)

ことからについて、那須次郎氏が著しました、

『^{リニア}重箱の隅をついで遊ぶ』を贈らせて

いただきます。「上とじ」にご覧になってください。

内容に関するご意見・ご感想・添削ご指導をお寄せください。

また皆様の製作例、X-カー品トラブル&対策例など募集しております。

— なお、表題のとおり、この書は 遊ぶ の心で著したもののゆえ、

ようしリアスにはお借り取りになられませぬよう、

予めお願ひいたしましたこと存じます。

(1冊分だけコピーNGは
早めにご連絡ください)

はじめに

近年のアマチュア無線機器の進化と変貌には大いに驚かされ、また刮目して見るべき機能、回路も多く見出されています。「十年必と昔」ところが、「はるか十年」、もはや十年は太古の昔、の感をおぼせる進歩、ではあります。

ところが、ごく単純かつ基本的 RF 回路であり、かつこの世界ではかなりの重要度を持つと思われる「パワーアンプ」(主に真空管使用)の分野では、日本の現状を見るかぎり、十年前の域からほとんと出していない(一般的なお話とい)のが実情ではないでしょうか。

もちろん、高周波に関する専門家は、HF 帯だと「はるか十年」、もちろん、ご卒業あとはされて、今や時代は SHF、となつてきているのかも知れません。

つまり、私たちアマチュアは(特に HF 帯を愛している者は)

やもするに、「時代」の流れにとりのこされ、エライカンスと化す危険がないでもない、のです。HF 帯筆やかなりころに、筆や

に「デビュー」された OM、OT たちの、あの「筆やかた」た彼らの時代の

今にして思えば、とつともなく古く、蒙りに昧なる内容のお話、(含、技術、知識に関する内容)ばかりを、くりかえし、くりかえし

半ば強制的に読ませ、聞かされたことには原因があります。

もちろん、OM、OT たちに責任があるわけではなく、おぼの

責任は、それをうみにするばかりで、新たな知識と書物に

あるいは現物に求めよとしたかた私共にある、と申せまはう。

不幸なことに、この「十年」のうちに、時代の流れが、

お金の流れが、はたまたアマチュアの皆共の意識の流れでは、

これから勉強しようか、とせかく思い立つ者にとつては参考とすべき

良書、知っておいて損しない知識のカンヅクが、今や市場から消え

去りつつあります。美味しいモノが消えてしまう、これは悲しいことです。

そんな中で、かつて先人が「RF 回路はどのように作れ!」、

「送信機はこう作れ!!」と叫びを上げていたのが、遠く、コダマの

ひびきのように、かすかながらも筆者の記憶の往来によみがえり

まいます。これを今のうちに、何かにも X としておかなくては

どう遠くない将来、この伝統の秘法、なつかしい味はもはや

私共の手のとどかない世界に消えてしまう、との危機感と

しあわせなことに、身近にその伝統芸能、お加の味を再現し

みせてくれる数人の良き友を得たよるこびとにアツキさいて、
こんなものを書き残すに至りました。

筆者は、その道のプロではありませんし、学問も積んでは
ありませんので、「正確厳正・間違いない」の内容を書き表す
ことはできません。やうやくもない見聞・読書と、いくつかの
自己流の奥馬鹿から「フム、やんたとはるか」との感触を得たので
やららるゝゴチャゴチャと書いてみることにしたという次第。

さういふ、本冊子と仕上げる段には、プロの書いた実用的かつ
裏付けありの本を手にする事ができました。(伊藤著「アース・シリズ」)
自分ながら考えたことが、プロの先生も同じように考えていたことを
知って、ウレシクならしめましたので、いくつか引用させていただきました。

本冊子の中に、考えたことの全部をおさめることはできませんし、また
せかく役に立つ内容の記事・書物もすべて引用するわけには参り
ませんので、これは読者の皆さんのご楽しみに、末尾の「参考
文献」で紹介させていただくことで、あるいは *eyeball QSO*
のときなど折にお話しするとして、とっておくことにしました。

このまきには ^{リニア} 重箱の隅をつつくような内容の、繊細な、あるいは
クソクソな、あるいはスボウな、素材を生かし、腕をふるって
心をこめて作る、アマチュア無線家(特にHF帯DX愛好家)
の重箱料理研究の「成果」、あるいはその過程を、存分に
楽しんでいただけたら、本冊子は当初の目的を達する。

本冊子の内容に関するご意見、あるいは、皆様の地方の「伝統
芸能・秘伝の味」などの紹介・材料調達の方法などを
筆者あて、お寄せいただけると、大変有難いと思ひます。

次回には、おいしい重箱の作り方・実例と食中毒(トウアヒ)退治
を書いてみたいと考へます。(皆様の協力いただいで可が。)

……では、おたっしで！ ヤマバトとスズメとカッコーの
声もききながら、「出え出え、POッPOッー」、「Tune、フン！」
やれに、「発砲、ハッポー！」… フォット電波中毒…かな。

1985年7月吉日 栃木県、別荘にて
重箱料理研究家・那須次郎 (Jiro Nasu)